mizkan
やがて、いのちに変わるもの。

ピエゾグラフによる いわさきちひろ展

ちひろの絵のひみつ

小犬と雨の日の子どもたち　1967年

2026 9/19(土)～10/25(日)

開館時間　午前9時30分～午後5時
休館日　毎週木曜日、10/13(火)、10/14(水)
会場　MIZKAN MUSEUM内MIMホール
所在地　愛知県半田市中村町2-6
アクセス　名鉄河和線「知多半田」駅下車、徒歩13分
JR武豊線「半田」駅下車、徒歩3分
知多半島道路「半田中央I. C.」または「半田I. C.」より15分

入場料　無料（事前予約不要）
主催　MIZKAN MUSEUM、ちひろ美術館
後援　半田市教育委員会、中日新聞社
お問い合わせ　0569-24-5111
※MIMの通常見学コースは有料・事前予約が必要です。

MIM　検索

MIM MIZKAN MUSEUM
CHIHIRO ART MUSEUM TOKYO・AZUMINO

ピエゾグラフによる いわさきちひろ展

ちひろの絵のひみつ

やわらかな色彩と確かなデッサン力で、いきいきとした子どもの姿を描き続けた画家・いわさきちひろ。ちひろの作品は、どのようにして描かれているのでしょうか。一見なにげなく描かれているようにも見える絵の背後には、さまざまな技法や工夫が隠されています。

本展では、「水の使い方」「構図の工夫」「色の効果」「“引き算”する」「かわいさのひみつ」「線のテクニック」の6つの法則に注目し、ちひろの絵につかわれた技法をピエゾグラフで紹介します。ちひろの絵の魅力を再発見するとともに、あなたが絵を描くときのヒントも見つかるかもしれません。

アヒルとクマとあかちゃん　1971年

かわいさのひみつ

ちひろの描く子どもは
なぜかわいいのでしょう？
顔の比率や、手のしぐさに
注目します。

ピエゾグラフについて

ちひろ美術館では、2004年より、その時点の作品の状態をデジタル情報として記録し、保存していくアーカイブを続けてきました。同時に、そのデジタル情報をもとにして、「ピエゾグラフ」を制作しています。
ピエゾグラフとは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩画を高度に再現しています。

関連イベント MIM内

ちひろ美術館学芸員によるギャラリートーク

9/19（土）

①10:00～ ②11:00～ ③13:00～ ④14:00～

入場無料

ちひろの水彩技法ワークショップ
～白抜き技法を体験しよう!～

期間中の毎週日曜日

9/20（日） 9/27（日） 10/4（日） 10/11（日） 10/18（日） 10/25（日）

10:00～15:00 / 1時間ごとに開催（12:00～13:00は休憩）

参加無料

※当日、設置されている予約表に名前を記入いただくと参加いただけます。
【各回定員5名】

いわさきちひろ（1918～1974）

福井県武生（現・越前市）に生まれ、東京で育つ。
東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年、紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。
1956年小学館児童文化賞、1961年産経児童出版文化賞、1973年『ことりのくるひ』（至光社）でボローニャ国際児童図書展グラフィック賞等を受賞。代表作に『おふろでちゃぷちゃぷ』（童心社）、『あめのひのおるすばん』（至光社）、『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）などがある。

1973年4月（54歳）